

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.594

白馬村の枝垂れ桜〈長野県〉

残雪の白馬連峰を背景に、大出の吊り橋、姫川の清流、そして満開の枝垂れ桜を望むことができる、白馬村の大出公園。日本の原風景とも呼べる美しい景色がゆっくりと春色に染まり、訪れる人の目を楽しませてくれます。



イラスト：数崎 花鈴

※イラストはイメージです

清らかな北アルプスの雪解け水で育てられる、安曇野のわさび。春先には可憐な白い花を咲かせます。



〈出会いと別れ〉

親はわが子が誕生した時、その出会いにこの上ない喜びを感じます。そして赤ちゃんの笑顔を見た時には、愛おしさと幸せを感じると思います。

その赤ちゃんも少しずつ成長し、多くの人と出会い、また進学や進級によって別れを経験します。やがて社会人になり、仕事に就いた時にも出会いと別れがあります。

多くの人と出会い、時間を共にすることによって、楽しい日々を過ごすことができ、嬉しい出来事があれば共に感動を味わうこともあります。会社での先輩や後輩、同僚との出会いも同じで、お互いを認め合い、励まし合えることが楽しく、そして充実感を覚え、働き甲斐も感じます。

しかし人生には出会いの数と同じだけ別れがあります。出会いがあるから別れがあるのです。

誰しも別れることは望んでいませんが、お互いの考え方の相違など、何かが原因で別れてしまうこともあります。その時は「もう少し相手に寄り添えなかったのか」と考え、その後の人との出会いや生き方にプラスになるように心掛けたいと思っています。

楽しい出会いと悲しい別れ。

楽しい時よりも悲しい時こそ、自分自身を見直す機会ではないでしょうか。出会いも別れも全て成長のきっかけとして捉え、日々前向きに歩んでいきたいと思えます。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

スピード大学芋の作り方

徳島の特産品
鳴門金時を使ったお料理

- 材料(4人分)**
- サツマイモ.....500g(中2個)
 - 砂糖.....50g
 - ※コクが出るきび砂糖がおすすめ
 - サラダ油.....50ml
 - 黒ゴマ.....適量



作り方を教えてくれた人



酒井農園
酒井 崇志さんと
お母様・美子さん

60年以上にわたって鳴門金時を栽培している酒井農園では、最高品種のひとつである「里むすめ」を手がけている。上品な甘さとしっとりとした食感で、全国的に評価が高い。



- ① サツマイモは皮をむいて、食べやすい大きさに乱切りにする。
- ② 切ったサツマイモを水にさらしてアクを抜く。にこりがなくなるまで水を2〜3回入れ替える。
- ③ フライパンに油を引き、水気をきいたサツマイモと砂糖を入れる。砂糖を絡めながら、中火で軽く焼き色をつける。
- ④ 蓋をして7〜8分蒸し焼きにする。蓋についた水滴をこまめに拭き取りながら、焦げ付かないよう時々ひっくり返す。
- ⑤ 溶けた砂糖が糸を引き、サツマイモに竹串が通るようになれば皿に取り出す。黒ゴマを振りかければ完成。

吉野川が運ぶミネラル豊富な砂地で育まれた鳴門金時は、料理におやつにと万能。中でも定番の大学芋は、いつの時代も愛される味です。農家のお母様直伝のレシピなら、フライパンひとつでパリッと仕上がります。

日本は
ひろいな
おいしいな



徳島県徳島市「阿波十郎兵衛屋敷」

素朴で人情味あふれる 阿波の人形浄瑠璃

日本一の農村舞台敷を誇る
阿波の伝統芸能

古来より阿波藍の産地として栄えた徳島県。実はもうひとつ、徳島が誇る文化があります。それが、400年以上の歴史を持つ「阿波人形浄瑠璃」です。

人形浄瑠璃は太夫の語りと三味線の伴奏、そして人形芝居によって演じられる伝統芸能。三人の人形遣いが一体の人形を操る。「三人遣い」は世界的にも珍しく、大阪で発展した文楽など、全国各地で上演されています。

徳島の「阿波人形浄瑠璃」の特長は、神社の境内など村人が集まる場所に農村舞台が建てられ、人々の生活に根差しながら発展してきたこと。江戸時代後期から明治、大正にかけて建てられた農村舞台291棟のうち239棟(88棟が現存)が徳島に集中しており、この数か

らもどれほど徳島の人々の生活に浸透していたかが窺われます。

「もともとは、淡路島を所領としていた徳島藩の政策により、淡路島の人形浄瑠璃が発展したのが始まりです。そして、当時藍作で豊かだった吉野川流域の藍商人が、淡路島の人形座を招いて頻繁に興行を行ったことから、民衆の間に広く浸透しました。吉野川から離れた県南部では、村人たちが神社の境内に農村舞台を建て、自分たちで演じていたのです」と、阿波人形浄瑠璃を紹介する施設「阿波十郎兵衛屋敷」の佐藤憲治さんは教えてくれました。

自分たちが楽しく演じる 郷土の文化を次世代へ

そして今も、人々の暮らしに根差した伝統は受け継がれており、お祭りや結婚式、卒業式



屋敷の展示室では貴重な資料だけでなく、実際に人形を持ってみることも可能。人形の重さを感じ、動かす面白さを体験できる



農村舞台の暗い灯りのなかでも目立つように人形の頭(かしら)が大きく、光沢のある塗りが施されている。人形の身振りが大きいのも阿波人形浄瑠璃の特徴

上演後、挨拶をする人形遣いのみなさん。ハツラツと上気した表情が印象的

えがおで暮らせば

第二十二話

お弁当の力

春は始まりの季節

日の出の時刻がずいぶん早くなってきました。「春はあけぼの」と申しますが、朝早く起きて見上げた空がだんだん明るくなっていく様子を眺めていると、新しい一日の始まりにワクワクしてきます。この春という季節ならではの感覚が、私はとても好きです。

春といえば、始まりの季節。我が家の3人の孫たちも新学期を迎えますが、お子さんたちの進学・進級やご家族の新生活に伴って、この春からお弁当作りが始まるお母さんも多いのではないのでしょうか。私は、これまで夫と2人の子ども、娘婿、3人の孫たちにそれぞれお弁当を作ってきましたので、かれこれ40年にわたって作ってきたことになりません。ですから、楽しんでおいしく作るコツについては、それなりに知っている方だと思えますね。

春は、新入学やお花見など何かとお弁当に縁のある季節。今回は、40年にわたってお弁当を作り続けてこられた坂井さんに、作り方のコツとお弁当の魅力を伺いました。



赤、緑、黄色と彩り豊かな坂井さんお手製のお弁当。色だけでなく、味のバランスも考えてある

楽に楽しく作るコツ

私の持論ですが、楽しんでおいしいお弁当を作る極意は前日の夕食にあります。そう言うと、「残り物」と思われるかもしれませんが、少し違います。残ったものを「残り物」と言うなら、こちらは「残り物」でも言いましょうか。出来上がったお

料理を食卓へ出す前に取り置きしたり、調理途中の食材を取っておいて、翌朝少し手を加えて別メニューに仕上げるのです。「残り物」をあてにすると足りなくなったりして計算が狂うこともありますし、お弁当箱を開けて「昨日と同じ」ではつまらないですね。

もうひとつのポイントは、盛



夕食の「残り物」に少し手を加えたメニューばかりなら、作るのに10分とかからないそう

お弁当がつながく 感謝の気持ち

たし、一方で「今日のおかずおいしかったから、また入れて」と嬉しい言葉をかけてくれたことも。他愛もないやりとりですが、温かな日常として思い出されます。また、何でもない休みの朝に突然思い立って、お弁当を持って出かけたこともありました。そういう時は準備したものがないので、とりあえずあるものを詰めるのですが、不思議なことに外で食べる時もよりおいしく感じたものです。ただのお散歩がピクニックになるのも、お弁当の力のひとつですね。

主人との間にもお弁当にまつわる思い出があります。主人は毎日、お弁当箱をキレイに洗って「おいしかったよ」と返してくれたのですが、定年を迎えた日は、お弁当箱の中に感謝のメッセージが入っていたのです。それを読んだ時、これまで頑張ってきたことがとうとうという思いと、「こちらこそありがとう」という気持ちで胸がいっぱいになりました。

お弁当は食べる人のことを思っているものです。その気持ちの分、おいしく感じられるのかもしれない。たとえ自分のために作るお弁当でも、それは同じ。お弁当を思い出す時、作ってくれた人、作ってさしあげた人のこと、作った時の気持ちや出来事も一緒に思い出しませんか。そして、少し温かな気持ちになるでしょう？ それこそがお弁当の力だと思えます。



突然のピクニックにはサンドイッチが便利。ピーナッツバターを塗ったパンにブルーベリージャムを挟んだサンドイッチが家族に人気とか



ご主人が定年の日に、空いたお弁当箱に入れて贈ってくれたというメッセージ

お弁当がくれた思い出

お弁当作りで楽しみなのは、その感想を聞くことです。我が家の子ども達は帰ってくるなり「汁が出てた!」と文句を言うこともありました。お弁当がくれた思い出

お弁当作りで楽しみなのは、その感想を聞くことです。我が家の子ども達は帰ってくるなり「汁が出てた!」と文句を言うこともありました。お弁当がくれた思い出

より子さんのノート

お弁当作りにおすすめ 「残り物」のアレンジメニュー

お弁当に夕食の残りを入れるのは、とても合理的で良いアイデアですが、そればかりだと少し飽きてくることも。そういう時は一時間かけて、別のお料理に変えてしまうのがおすすめです。今回は坂井さんがよく使うアレンジ方法をご紹介します。



アレンジ 1 ひじきの煮物を少し取り置いておいて

「ひじきのだし巻き」



ひじきにしっかりと味が付いているので、調味料は加えなくてもOK

アレンジ 2 彩りのアスパラガスを少し多めにゆでておいて

「アスパラの肉巻き」



味の濃い煮物と一緒に入れる時は、軽く塩をふる程度の味付けに

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。

ほほえみのひろば

山桜

埼玉県入間市 田島 繁朗さん



娘の旅立ち

石川県小松市 山田 美鈴さん

我が家の前にある畑には、真ん中に大きな山桜の木が1本、どんとすわっています。

毎年、春になると艶やかな花と葉で目を楽しませてくれます。そして、何といても桜の美しさは、咲き誇る姿もさることながら、散っていく花びら。風が吹くと花びらたちが畑に舞い落ちて、辺り一面を雪景色のように覆ってくれるのです。

落ちた花びらは土壌を肥やし、野菜づくりをする生活にも一役買ってくれます。美しい山桜とともに暮らす日々です。

桜吹雪は、大切に育ててくれていることへのお礼かもしれませんね。

ピンクのランドセル

熊本県玉名郡 坂井 明子さん



今から55年前、父と一緒に少し離れた町までランドセルを買いに行った。嬉しさいっぱいでお店に入ると、たくさん赤と黒の中に、ピンクと茶色のランドセルが。今ではカラフルな色があるのは当たり前だが当時は珍しく、私はこともあろうにそのピンクを選んだ。

嬉しくて嬉しくて、まさに天にも昇る気持ちで帰宅。すると、思いがけなく父と母の口喧嘩が始まった。「ランドセルは赤に決まってる」と母。私は一瞬にして悲しくなり涙がぼろり…。

だが、結局はピンクのランドセルに6年間お世話になり、今では懐かしい思い出である。

ランドセルを背負った時の嬉しさは、いつまでも色あせない思い出ですよ。

またごげいね!

岩手県 関市 小巖 智枝子さん



私の地元には、展示棟やレストラン、直売所などが入っている交流館があります。その直売所で、私は月に5日ほど店員として働いています。

接客する機会も多くなってきたある日のこと。お客様がお帰りになる際、「またいらしてくださいね」と言おうとしたところ、ついつい「またごげいね」とこちらの方言を使ってしまいました!でも、「あら、良い言葉だね」とお客様に言われ、なんだか嬉しい気持ちに。

これからもお客様に喜んでいただくことはもちろん、自分も楽しみながら働けるよう頑張りたいと思っています。

あたたかい方言での会話とびきりのお土産になりますよ!

地元の美容専門学校を卒業した娘。そのまま地元で就職をするのだろうと思っていたのですが、娘は東京の美容室で働くことを選びました。厳しい倍率の中、見事憧れのお店で勤務することに。誰の力も借りず、毎月たった1人で東京の美容室にお客さんとして通い、自分をアピールしたことが実を結んだのだと思います。

小さい頃からの夢を貫き、自分自身の力で道を切り拓いた娘。その背中にエールを送ります。

頑張り屋の娘さんなら、東京でも活躍間違いなしですね。

ワンちゃんの洋服

東京都西東京市 杉山 文子さん



孫が、1歳ちよつとになるひ孫を連れて我が家に遊びにきました。すぐにハイハイして部屋の隅に行き、床に置いてある物を触ったりと目が離せません。でも、あまりの可愛さに、洋服を2枚ほど作りました。ハンガーに吊るすとお人形さんの洋服みたいですね。

それを見た孫は、「ワンちゃんの洋服も作って」と言い、型紙付の本を持ってきました。人間の洋服しか作ったことがなく初めてのことでしたが、試しに3枚ほど作りました。ひ孫の洋服よりもさらに小さいので、「着られるのかしら」と心配しています。はたしてワンちゃんは喜んでくれるでしょうか?

手作りの洋服なんて素敵。ひ孫さんもワンちゃんも大喜びですよ!

散歩での出会い

岡山県倉敷市 谷川 博子さん



このところ、お昼過ぎから夫と一緒に家の近所を散歩している。夫はもう何年も前から、少々の雨風の日でも朝、昼と皆勤である。

ある日、一斉下校の日なのか、いつもより多くの子どもたちと出会った。すると、お隣に住んでいるYくんの姿が目に入った。「Yくんおかえり」と声をかけると、隣にいた女の子がすかさず「友だち?」と聞いた。Yくんはちよつと考えてから、「近所の人」と良い返事を返していた。

そのやりとりがとても可愛かったので、私たちは自然と口元がほころんでしまった。心が和んだ散歩のひとつときであった。

とつても可愛らしいやりとり。素敵な出会いも散歩の魅力ですね。

燈々無尽

前進しよう

常に前を向こう。
輝かしい春
希望の春がきた。
ともかくにも
いろいろの問題はあるが
常に前に向かって
前進しよう!
生きるとういうことは
苦しみをこえて
かなしみをこえて
前に向かって
進んで行くことだ。

鈴木清一

愛の輪からGUTS!M



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

障がい者スポーツの最高峰「パラリンピック」

先日開催された平昌オリンピックと平昌パラリンピック。様々な障がいのあるトップアスリートたちが限界に挑むパラリンピックは、世界最高峰の国際競技大会であると同時に、共生社会を実現するためのヒントが詰まっている大会です。アスリートたちが活躍する姿を見て、社会の中にあるバリアを減らし、誰もが個性や能力を發揮して活躍できるより良い社会づくりについて改めて考えてみたいものですね。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 http://www.ainowa.jp/



あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆さまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼品をお送り致します。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

No.420からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

この新聞をお届けしているのは



求愛中

群馬県北群馬郡
高橋 和雄さん

今年も綺麗に
咲きました



静岡県周智郡
平田 朱美さん



お兄ちゃん、
楽しいよ～

兵庫県
高砂市
楠田 亜紀さん



春のお散歩
ウキウキ♪

宮城県
名取市
渡部 智子さん



ピクニックで
はい、あーん

神奈川県
厚木市
曾根 綾乃さん

私たち
103歳差!

福岡県
宮若市
石松 敦子さん



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてください!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスののご案内をさせていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター
4月1日より名称がダスキンコンタクトセンターに変わります。

0120-100100 www.duskin.co.jp